

第31回 日本エンブリオロジスト学会 学術集会・ワークショップ

大さん橋ホール、2026.1.7～1.8

高齢患者および Zymot 併用下における PICSI の有効性：ICSI との比較検討

朝香未来¹, 佐藤学¹, 森本義晴¹

¹HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】

ヒアルロン酸結合性に基づく PICSI を 2025 年に導入した。ICSI と PICSI の成績を、良好胚盤胞率を主要評価項目として比較し、年齢層別および Zymot 併用下での差異を含め、PICSI の効果を検討した。

【方法】

2025 年 1 月 1 日～7 月 31 日の当院治療 398 周期（平均年齢 36.7 歳）を対象とした単施設後方視的解析を行った。PICSI は SpermSlow（Cooper Surgical）のドロップを用いて精子選別を行った。主要評価を良好胚盤胞率とし、副次評価を 2PN 率、異常受精率、胚盤胞率、移植あたり臨床妊娠率、臨床妊娠あたり流産率とした。年齢（ ≤ 39 歳/ ≥ 40 歳）および Zymot 併用の事前層別解析を行った。群間の年齢に有意差は認めなかった。統計学的検定は適切な方法で両側検定を行った。

【結果】

全体では 2PN 率は ICSI が高値であった（81.7% vs 77.0%）。胚盤胞率（66.9% vs 67.1%）と良好胚盤胞率（31.5% vs 32.0%）には有意差を認めなかった。 ≤ 39 歳では全体と同様であった。一方、 ≥ 40 歳では PICSI が胚盤胞率（74.0% vs 64.3%）と良好胚盤胞率（30.8% vs 27.0%）で有意に高値を示した。Zymot 併用下では 2PN 率は ICSI が高い一方、良好胚盤胞率は PICSI が高値（17.9% vs 13.8%）。移植あたり臨床妊娠率は PICSI 33.0%、ICSI 27.4%で有意に高かった。流産率は PICSI 3.4%、ICSI 2.1%で PICSI が高かった。

【結論】

2PN 率は ICSI が優位である一方、 ≥ 40 歳および Zymot 併用では PICSI が胚発育および臨床妊娠率の改善に関連する可能性が示唆された。これは高齢卵子が精子 DNA 断片化の影響を受けやすいことに対し、PICSI によってより非断片化精子が選択されたことが寄与した可能性が考えられる。